

(社)地盤工学会 室内試験規格・基準委員会  
「平成19年度 第4回 議事録」

日時	平成19年10月29日(月) 13:00~19:00		場所	地盤工学会地下1階会議室	
委員長	後藤 聡		幹事	豊田 浩史	
幹事	川崎 了		委員(WG1)	杉井 俊夫	
委員(WG1)	細野 高康	×	委員(WG2)	川口 正人	
委員(WG2)	太田 岳洋	×	委員(WG3)	渡部 要一	
委員(WG3)	山本 肇		委員(WG4)	仙頭 紀明	
委員(WG4)	畠山 正則		委員(WG4)	上原 真一	
委員(WG5)	大窪 克己 (横田 聖哉)		委員(WG6)	平井 貴雄	
委員(WG7)	三谷 泰浩	×	委員(WG8)	石川 達也	

:出席 :代理出席 ×:欠席

議事録担当:川崎 了 幹事,豊田浩史 幹事

配布資料: (下線は当日追加資料)

資料番号なし:平成19年度第4回室内試験規格・基準委員会議題書

資料19-4-1:平成19年度第3回室内試験規格・基準委員会議事録

資料19-4-2-1:地盤工学会基準(JGS)の書式改訂のお知らせ

資料19-4-2-2:室内試験規格・基準リスト

資料19-4-2-3:JGSとJISの書式対比表

資料19-4-3-1(1):WG1関係 規格・基準改定状況

資料19-4-3-1(2):試料調製方法

資料19-4-3-1(3):粒度 & 細粒 & 石分

資料19-4-3-1(4):液塑性

資料19-4-3-1(5):湿潤密度試験

資料19-4-3-1(6):凍上

資料19-4-3-1(7):砂 & 礫最大最小密度

資料19-4-3-1(8): WG1 JIS改正公示文

資料19-4-3-2(1): JIS A 1226 土の強熱減量試験方法改正案

資料19-4-3-2(2): JGS 有効陽イオン交換量(CEC)の測定方法新規基準案

資料19-4-3-3(1): WG3 圧密透水・圧密公示文

資料19-4-3-3(2): JIS A 1218 透水改正案

資料19-4-3-3(3): JIS A 1218 透水 赤ペン入り

資料19-4-3-3(4): JIS A 1217 段階載荷改正案

資料19-4-3-3(5): JIS A 1217 段階載荷 赤ペン入り

資料19-4-3-3(6): JIS A 1227 定ひずみ改正案

資料19-4-3-3(7): JIS A 1227 定ひずみ 赤ペン入り

資料19-4-3-4(1): 規格・基準改正案 WG4

資料19-4-3-6(1): ジオテキスタイル関連基準の改正 公示文案

資料 19-4-3-6(2): 開孔径試験  
資料 19-4-3-6(3): 垂直方向透水性能試験  
資料 19-4-3-6(4): 面内方向通水性能試験  
資料 19-4-3-6(5): 一面せん断試験  
資料 19-4-3-6(6): 引抜き試験  
資料 19-4-4-3: WG 3 透水・圧密 解説目次  
資料 19-4-4-8: 第 8 編 特殊土の試験目次案  
資料 19-4-5-1: 「土質試験 - 基本と手引き - 」改訂版編集 WG 設立趣意書  
資料 19-4-5-2: 基準部委員会運営細則  
資料 19-4-6: 突固めによる土の締固め試験に関する問合せについて(回答)  
資料 19-4-7-1: 基準部平成 20 年度事業方針・事業計画(案)  
資料 19-4-7-2: 平成 20 年度基準部関係委員会予算案  
資料 19-4-7-3: 編集行程案(修正版)  
資料 19-4-8: 平成 19 年度第 3 回基準部会議事録  
資料 19-4-9-3: 第 4 回 WG 3(圧密)議事録  
資料 19-4-9-4: WG4 関係資料一式  
資料 19-4-9-5(1): WG5:安定化試験WGの活動状況  
資料 19-4-9-5(2): 第 2 回 WG5:安定化試験WG 議事録(案)  
資料 19-4-10: 室内試験規格基準委員会予算執行状況表  
資料 19-4-11: WG8 特殊土メンバーリスト  
参考資料: JIS Z 8301:2005「規格票の様式及び作成方法」改定に伴う留意点

議 題:

【審議事項】

(1)WG8 特殊土 メンバーの追加

WG8 の石川委員より,新たに合計 7 名のメンバーを追加したい旨の説明がなされた。1 名は高有機質土,そして 6 名は火山灰質粗粒土の専門家である。目次案の第 4 章(火山灰質粗粒土)の部分を強化したいことが主な理由であり,審議の結果,これを了承した。

(2)JGS基準のJIS書式化に関する検討

後藤委員長より,JGS 基準の書式改訂に関する方針変更について説明が行われた。すなわち,学会としては JGS 基準の見直し時に書式を JIS 規格に改正することが決定しているため,今回の赤本改訂時においても各 WG は JGS 基準の JIS 書式化に取り組むことになった。最終締切日は 3 月末日とし,各 WG から基準の改正案を提出していただき,4 月中旬に室内試験規格・基準委員会を開催予定とする。なお,学会が公示のためにホームページを使うようになってから初めての改正になることから,会告の方法を決める必要がある。学会事務局の伊佐治氏より,新しい赤本編集工程(修正版)が示された。また,JGS 基準については,MS-Word 形式の電子化が終了していることが報告された。

(3)規格・基準の見直し・改正について

各 WG より,規格・基準の見直し・改正の状況について説明がなされ,室内試験規格・基準

委員会で議論した。JIS 規格の改正については、次回の基準部会において上申する。なお、軽微な修正の場合(WG1, WG2, WG4, WG5)には、JIS 用の「まえがき」と序文、修正表、改正規格案(赤色で修正箇所がわかるようにしたもの)を準備する。一方、大きな修正の場合(WG3)には、JIS 用の「まえがき」と序文、学会誌用公示文、改正規格案(赤色で修正箇所がわかるようにしたもの)を準備する。JIS 用の「まえがき」と序文の例に関しては、室内試験規格・基準委員会の幹事会より示される。

上記以外の主な内容としては、以下に記載するとおりである。

#### WG1:

以下の規格に対する改正を行う(合計7)。なお、JIS Z 8301(規格表の様式及び作成方法)の改正を含む。

JIS A 1201: ふるいの引用規格名変更による改正

JIS A 1204: ふるいの引用規格名変更、誤植の修正などによる改正

JIS A 1205: ゴムの硬さ試験方法の引用規格名変更、誤植の修正などによる改正

JIS A 1209: 表の枠組み形式の変更による改正

JIS A 1223: ふるいの引用規格名変更による改正

JIS A 1224: ふるいの引用規格名変更による改正

JIS A 1225: 「吊り」を「つり」、「吊るし」を「つるし」とする改正

#### WG2:

ふるいの引用規格変更により、JIS A 1226 の改正を行う(合計1)。JIS Z 8301(規格表の様式及び作成方法)の改正に対応した修正を行っていただくことになった。

一方、新規制定基準案「土の有効陽イオン交換容量(CEC)の測定方法」が示された。ISO の同じ規格を加筆・修正して作成されたものであるため、その旨を加筆していただく。また、「6 報告事項」および CEC の定義について加筆する。

#### WG3:

以下の規格に対する改正を行う(合計3)。なお、JIS Z 8301(規格表の様式及び作成方法)の改正を含む。図については JIS 書式に従う必要があり、日本規格協会に問い合わせる。

JIS A 1218: 透水係数の単位を cm/s から m/s に変更

JIS A 1217: 成形方法において硬質試料の取り扱い方を記載

JIS A 1227: 透水係数の単位を cm/s から m/s に変更、また、透水係数を算出した後に圧密係数を算出するようなデータ整理方法への見直し

#### WG4:

引用規格番号の誤りにより、JIS A 1216 を改正する(合計1)。会誌の公示文に使う「まえがき」と修正表を作成する。使いやすさを考えて、土と岩を完全に分離した目次案が示されたが、WG4 の全メンバーがこれに合意しているのか、また、土と岩を一緒に取り扱う方法はないのか、などの意見が出されたことから、これらの意見に関して WG4 内でもう一度検討していただくことになった。

#### WG5:

ふるいの引用規格名変更により、JIS A 1210, JIA A 1228, JIS A 1211 の改正を行う(合計3)。会誌の公示文に使う「まえがき」と修正表を作成する。現在、3 つのグループ(締固め、安定

化, 薬液)に分かれて作業中である。

WG6:

5 つの改正基準案に関する説明が行われた。「成形」の使い方が表記法で決められた用語の使い分けに合っているかどうかを確認した後, 次回の基準部会に上申する。

(4)解説の目次案について

一部の WG から目次案が提出されたが, 時間の都合上, 次回の室内試験規格・基準委員会で議論することになった。

(5)「土質試験 - 基本と手引き - 」改訂関係

資料 19-4-5-1 に基づき, 設立趣意書が説明された。趣意書にタイトルについても検討することを付け加えて, 基準部会へ上申することとした。

(6)Q & A 関係

WG5 の大窪委員(代理:横田氏)より, 突固めによる土の締固め試験に関する会員からの問合せに対する回答案について説明がなされた。審議の結果, 次の点を修正し, かつ, 宛先と期日を加筆した文書を質問者まで返答することになった。

- ・「\* \* 回答案 \* \*」 削除
- ・「当方」 「当委員会」(計 2 箇所)
- ・「粗流分」 「粗粒分」

(7)来年度委員会の活動計画案及び予算案

室内試験規格・基準委員会の幹事会より報告がなされた。

(8)その他

特になし。

## 【報告事項】

(1)前回議事録の確認

豊田幹事より, 前回の室内試験規格・基準委員会の議事録について説明がなされ, 内容の確認が行われた。

(2)基準部会の報告

平成 19 年度第 3 回基準部会の議事録の中で, 室内試験規格・基準委員会に関係がある事項について報告がなされた。なお, シラスの基準に関しては, WG8 の執筆活動に関係する可能性があるため, 地盤調査規格・基準委員会との情報交換を個人レベルで実施することになった。

(3)WG の活動報告

各 WG より進捗状況について報告がなされた。

(4)今年度予算の執行状況

室内試験規格・基準委員会および各 WG の平成 19 年度予算の執行状況について確認が行われた。一般会計は総額として既に使い切っていることから, 今後は刊行事業特別会計の予算を使用することになる。

(5)その他

学会事務局の伊佐治氏より, ASTM2007 の CD-ROM 版が発注済みであること, および, JIS

A 1210 の正誤表を JISC が発行することになったことが報告された。

次回の室内試験規格・基準委員会は、平成 20 年 1 月 24 日(木)10:30～17:30、場所は地盤工学会会議室で開催する。各 WG は、次回までに JGS 基準の JIS 書式化を半数程度終えているように努力する。

以 上